岩手県立千厩病院　～患者さんのための院内ニュース～第７１号　　２０２４年１月発行

広報誌 うぐいす

TAKE FREE
ご自由に
お持ちください

病院理念

すべての人々に安らぎと希望を

基本方針

1. やさしさとぬくもりのある医療を提供します。
2. 個人の価値観に配慮し、患者中心の医療を展開します。
3. 適切なリスク管理により、安全・安心をめざしたチーム医療を提供します。
4. 地域に根ざした病院として、地域の医療・介護・保健・福祉に貢献します。
5. 医療人として常に質の向上を図り、健全で希望に満ちた病院づくりに努めます。

新年を迎えて

千厩病院長　　佐藤　一

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は当院の運営にご理解ご協力頂き誠にありがとうございました。年初にあたり、御挨拶申し上げます。

昨年は、3年続いたコロナ禍が一段落した年でした。当院は2020年の秋から積極的に新型コロナ感染者の入院を受け入れ、一関圏域で最多の600人以上の患者さんをこの３年間で治療してきました。役割を分担して県立磐井病院は小児や妊産婦を含む専門治療を要する感染者を主に受け入れ、当院は高齢者を中心に一関圏域内から広く多くの患者さんを受け入れました。そのため、従来の大事な役割であった東磐井地域の救急医療やリハビリを含む回復期の医療などに多少の制限を余儀なくされた時期もありましたが、地域の皆様のご理解によりコロナ禍の難局を何とか乗り越えることが出来たと考えています。

昨年5月に新型コロナの感染法上の取扱が５類になったとは言え、同じく５類の季節性インフルエンザがそうであるように、高齢者や小児などは重症化することもあり、しっかりとした感染症対策は必要です。インフルエンザと異なり季節性がなく、一年を通して再流行の恐れもあることもその対応を難しくしています。５類になって多くの病院で治療が可能となり、自宅や施設でそのまま療養する患者も増えたことで、当院への入院患者数は少なくはなりましたが、新型コロナ患者の入院はほぼ途切れることはなく続いており、まだまだ気の抜けない状況です。

さらに昨年秋頃からはこの３年間ほとんど見られなかったインフルエンザの感染者が増加して、こちらについても新型コロナとほぼ同様の治療を行っています。今年も感染症に対応しながら様々な疾病の治療を継続していく事となります。

また近年は異常気象と言われる状況が毎年のように見られており、世界中で最も気温が上昇した昨年の夏の猛暑は、この地域の住民の健康にも大きな影響を与えました。高齢の患者さんの多くは感染症やその他様々な疾患で入院しますが、その中には熱中症と考えられる脱水症や腎不全などを合併している方がかなりの数含まれていました。従来は、寒くなる晩秋から冬に体調を崩す高齢の患者さんが多く見られて病院も忙しくなるのですが、近年は夏の暑さも同様に健康を害するほどになっており、夏にも入院のピークが見られるようになっています。この傾向は今後も続くと考えています。高齢者が身近におられる方は寒さ対策に加えて、次の夏に備えて暑さへの対策も考えて頂ければと思います。

昨年は新型コロナ感染が落ち着くのに合わせて、休止していた地域包括ケア病床を再開しました。高齢者を中心とした回復期、亜急性期の患者さんにリハビリや自宅への退院、施設入所などへの調整の時間を確保出来る様な仕組みです。しかし、日本全体がそうであるように、この東磐井地域も人口減少、高齢化が急速に進んでいます。高齢の方は独居で自立していても、若い家族と同居している場合でも、その心身の変化にあわせて生活様式を変えたり、福祉サービスを導入することが必要になるのですが、多くの場合は高齢の方が体調を崩したり病気になって初めてその後の生活をどの様にするか考え、様々な手続きを始めます。地域包括ケア病床はそのような方々の生活を支える仕組みでもあるのですが、身近に頼れる方がいなかったり、施設が手一杯だったりして、退院に向けての調整に苦慮する患者さんも多くいるのが実状です。そのような患者さんにもあらゆる可能性を考慮して、皆様の生活を支える仕事を進めていきたいと考えています。入院されていなくても高齢の方の生活で困るようなことがあれば遠慮なく当院の職員に声をかけてください。住民の生活を支えることも当院の大きな役割であり、それが医療の充実にも繋がると考えています。

当院は高齢者を中心とした救急医療、地域包括ケア、血液透析、この三つの役割を中心に住民の皆様の健康を守り、生活を支える存在であり続けられるようにスタッフ一同で努力を続けてまいります。

本年も岩手県立千厩病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

整形外科外来のご案内

整形外科外来新任医師の紹介

皆様、はじめまして。

令和５年 10 月より、整形外科・非常勤医師として着任致しました齋藤伸也と申します。実は、生年月日が前院長の宗像秀樹先生と同日で、思わぬ奇遇を感じて居ります。又、各科とも様々な先生方が、日々入れ替わり当院を支えている姿が目に映り刺激と感激を覚えている次第です。私も微力ながらその一端に加えて頂いている喜悦と苦悩を抱え、日々、持ち場についている昨今です。実生活では立派な官舎に置いて頂き、何くれとなく気を配ってもらって居り、感謝に堪えません。学生時代以来の独り暮らしは気楽かと思いきや、正直の所何も出来ずに少々戸惑っている情けなさであります。殆ど家内に任せっきりであった我が身の至らなさと諦めて、一男二女にも教えを乞うている所です。

ここで、少々私の経歴について紹介申し上げます。

生まれは、福島県郡山市の西端、会津の玄関口にあたる、磐梯熱海という温泉街で魚屋の一人息子です。捌く相手は違えども親父殿と同じ“なまもの“に刃物や針を使うのは、同じ習いとなりました。地元の進学校から、岩手医科大学へ～フェンシングに夢中になり、そこでの同期生、先輩、後輩との温かい交流は、生涯の財産となりました。卒業後は、両親らのたっての願いに賛同し、福島県立医科大学、整形外科教室に入局となりました。その後は研修医、大学助手、医局長を経て、地元郡山市内の国立病院勤務の上開業医となりました。約 25 年間の開業医生活を終え、後輩の病院を手伝っている時に、岩手県医療局の方々と連絡していて、医学生時代の６年間が妙に懐かしく、第２の古里、岩手に再びやって参りました。

岩手県の人達は、本当に親切で優しく、温かいです。もちろん本院も、佐藤院長先生はじめ皆さん微に入り細に入り、お気遣いを頂いて居り有り難い限りです。今後は、どこまで私の気力、胆力が維持できるものか自分と向き合い御役に立ちたいと考えます。

整形外科医　齋藤伸也

整形外科外来診療のご案内

診療日 ： 月曜日～木曜日

受付時間 ： 午前 11時まで

月曜日のみ　受付時間： 12 時から 16 時まで

診療時間： 14時から

よろしくお願いします

医 師 の 紹 介

赤沼 利奈 医師
岩手県立中央病院
（令和６年１月～３月）
診療科：総合診療内科

星 史彦 医師
岩手県立中央病院
（令和６年１月）
診療科：総合診療内科

副島 紗英子 研修医
国立国際医療研究センター病院
（令和６年１月～２月）
診療科：泌尿器科

ｱﾗﾋﾞﾝﾀﾞ・I・ｼﾞｬﾔﾃﾞﾜﾝ 研修医
岩手県立磐井病院
（令和６年１月～２月）
診療科：泌尿器科

○感染症予防３つのポイント○

感染管理室から

現在インフルエンザと新型コロナウイルス感染症が流行しています。
冬は空気が乾燥することで、空気中にウイルスが漂いやすくなるため、感染が拡がるリスクが高まります。そこで感染症を予防する３つのポイントをお話しします。

１．マスクについて

病院受診や外出する場合等、人が多く集まる場所ではマスクを着用しましょう。感染症の方がマスクをせず咳やくしゃみをすると、飛沫（つば）が周囲に飛び散り、それを吸い込むことで感染する可能性があるからです。風邪症状の有無に関わらず、人混みではマスクの着用をお願いします。

２．手洗いについて

手や環境の表面には様々な細菌やウイルスが付着しています。その手で鼻や口、目などに触れることで感染する可能性が高まります。外出から帰宅後は、速やかに手をアルコール消毒または石けんと流水で約 15 秒程度洗うように心掛けましょう。

３．換気について

換気は室内に滞っている埃やウイルスを外に出し、新たな空気を入れ換えることで感染リスクを減らすことができます。１時間に５～１０分程度窓を開けるだけで十分です。寒い場合はカーテンをしたままでも効果はあります。

まだまだ寒い日が続きます。体調が優れない場合は遠慮無く、電話でご相談ください。

感染管理認定看護師　石川　泰洋

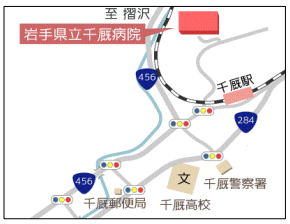
受診予約をお願いいたします

次の診療科は曜日によって完全予約制となっており、事前予約が必要です。

◆循環器内科　◆心臓血管外科　◆小児科　◆眼科　◆呼吸器内科　◆皮膚科
◆看護外来（医師の指示により実施）

ご予約に関するお問い合わせは、平日午後３時～午後５時の間、お電話で受付しております。

※キャンセルは随時受付しております。

岩手県立千厩病院

〒029-0803
岩手県一関市千厩町千厩字草井沢 32-1
TEL　0191-53-2101　FAX0191-52-3478